

翔

はばたけ

発行者

秋田県横手市根岸町2-14
秋田県立横手城南高等学校

図書委員会

思い出「少太陽」

教頭 伊藤 匡



皆さんは、小
学生の頃に夢中
になったことあり
ますか。

私にとって、それは友人4人と一
緒に漫画雑誌「少太陽」を作ること
でした。2年間で25号も発行し、毎
号、新しいアイデアを持ち寄って作
品を描いていました。漫画の内容は
もちろんのこと、表紙のデザインや
キャラクター設定まで、皆で知恵を
絞りながら作り上げる日々は、とて
も楽しいものでした。

当時の私たちは、より良い漫画を
作るために、たくさん本を参考に
していました。物語の構成を学ぶた
めに小説を読み、登場人物の動きや
表情を描くために図鑑や写真集を眺
め、セリフ回しを工夫するために落
語の本も開きました。

地域の図書館や書店に
足を運び、紙の手触り
を確かめながら新しい
知識を吸収することが、
漫画づくりの大切な時
間だったのです。



思い出「少太陽」

今振り返ると、漫画
を描くことは単なる遊
びではなく、創造力を

養う学びの場だったように思いま
す。本から得た知識を活かし、仲間
と協力しながら作品を作ること
で、表現することの面白さを知り、自分
の世界を広げることができました。
本は、読むだけでなく、新しい発想
を生み出す源にもなるのです。

本校の図書館にも、さまざまな
ジャンルの本が揃っています。物語
の資料として活用するのもよし、調
習の資料として活用するのもよし、
新たな発見やアイデアの種を見つ
けるのもよし。どんな本と出会うか
で、その後の学びや考え方が変わるか
もしれません。

かつて私が「少太陽」を作る中で
本と向き合ったように、皆さんも
ぜひ、図書館の本を手にとってみて
ください。そこには、新しい世界への
扉が広がっています。その扉を開い
た先には、未知の物語、心を動かす
言葉、そして自分自身の新たな可能
性が待っているかもしれません。本
のページをめくることで、新しい発
見と出会いが生まれ、あなた自身の
世界が少しずつ広がって
いくはずですよ。そして、
もしかしたらその先に、
あなた自身が誰かに伝
えたくなる物語が生まれ
るかもしれません。その
時、あなたが紡ぐ物語が
誰かの心を動かし、
新たな世界を切り拓く一
歩になるはずです。

貸出の現状

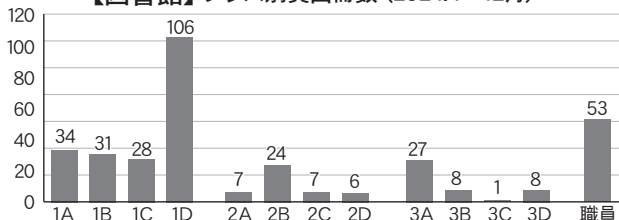
今年度の横手城南高
校図書館からの貸出総数
は三百四十冊（12月31日
現在）でした。昨年度は
二百十六冊（令和5年4
月1日から12月31日まで
の統計）でしたので、昨
年度よりも本校図書館の
貸出総数は増えました。

生の図書館利用が多いこ
とが分かりました。また、
教職員は合計五十三冊借
りている状況で、学校全
体で図書館を利用してい
ることがデータから読み
取れます。

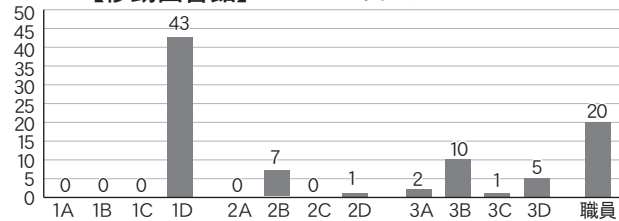
ジャンルとしては文学
の貸出が多く、これは毎
年変わらない傾向のよう
です。

本校では、図書館の他
にも各階に移動図書館が
あります。ぜひ本を身近
に感じて手に取ってみて
ください。本との新たな
出会いがあなたの世界を
変えるかもしれません。

【図書館】クラス別貸出冊数（2024.4～12月）



【移動図書館】クラス別貸出冊数（2024.4～12月）



お知らせ

今年度からの 取り組み

カールの 利用について

今年度から、日本最大の図
書館蔵書検索「カール」を
導入しています。これを利用
して、本校の蔵書を予約する
ことができます。さらに、秋
田県立図書館、横手市立図書
館の本も検索でき
ます。ぜひご
利用ください。



本校では、令和
6年11月5日～令
和7年3月31日を
試行期間として、
図書館を一般市民
の方へ開放してい
ます。詳しくは本
校ホームページを
ご覧ください。

図書館の 開放について

登場人物の心情や背景、仕草
など、細かい部分も分かるこ
とです。

読書の魅力は何だと思いま
すか。

学校では休み時間に読んでい
ますが、家でも少しでも時間
があれば読んでいます。

どんなときに本を読みま
すか。

「6人の嘘つきな大学生」です。
先日書店に行ったときに映画
化されると知って興味を持ち
ました。あらすじも面白そう
だったので読んでみたいです。

今後読んでみたい本はあり
ますか。

「サイレント・ウィッチ」です。
伏線回収が多く、面白かった
です。

一年D組

高橋 瑠夏さん（31冊）

一年D組

菊地 悠彌さん（27冊）



多読者インタビュー

今年読んだ本で一番印象に
残っている本は何ですか。

今年読んだ本で一番印象に
残っている本は何ですか。

「あの世から聞いたこの世の
仕組」という本です。自分の
中で深く理解できる部分が
あり、共感することができま
した。

「あの世から聞いたこの世の
仕組」という本です。自分の
中で深く理解できる部分が
あり、共感することができま
した。

今後読んでみたい本はあり
ますか。

今後読んでみたい本はあり
ますか。

恋愛小説などが読みたいで
す。

恋愛小説などが読みたいで
す。

どんなときに本を読みま
すか。

どんなときに本を読みま
すか。

休み時間などのちょっとした
すき間時間や、休日に読んで
います。

休み時間などのちょっとした
すき間時間や、休日に読んで
います。

読書の魅力は何だと思いま
すか。

読書の魅力は何だと思いま
すか。

自分の中の世界が広がるこ
とだと思います。

自分の中の世界が広がるこ
とだと思います。

第70回青少年読書感想文全国コンクール

みなさんは、「読書感想文」を書いたことがありますか。夏休みの宿題だったという人もいるかと思いますが。

読書感想文コンクールは、

①子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図ること

②より深く読書し、読書の感動を文章に表現することをおして、豊かな人間性や考える力を育むこと

を目的とした、全国学校図書館協議会と毎日新聞社主催のコンクールです。

課題読書（主催者の指定した図書）の部門と、自由読書（自由に選んだ図書）の部門があります。

この自由読書に、2年生の本間凜さんが作品を応募しました。今回は、その作品をみなさんに紹介したいと思います。

対象図書は、年森瑛の「N/A」で、現代社会における多様性や個人の在り方について深く考えさせられる作品です。

「わたしの言葉で」

本書では、現代社会で良しとされている「多様性」がまどかを苦しめている。生理が来るのが嫌で低体重を保っているから「拒食症」、同性どうして付き合っていること

がバレると「レズビアン」、付き合っている人に別れ話をする「同性愛者」に向けられる世間の目に耐えられなくなった人、スタイリッシュな外見から女子校では「王子」と崇められている人など。どこにいても様々な属性に押し込められている彼女は、とても窮屈そうに見えた。

様々な枠組みや言葉が認められた現在、私は個としての自分が薄くなっていくことへの恐怖を感じている。そのため、様々な属性に当てはめられながら「ただのまどか」としてずっと生きていたかった」と語る彼女の切実な思いに自分を重ねながら、ページを操る手は止まらなかった。

物語を読み終えて思うことは、「優しさとは何か」ということだった。世間は多様性を謳いながら、優しさでたくさんさんの言葉を生んだ。しかし、まどかの本心は「まどかをまどかとして見てほしい」の一点張りだ。その思いに反して、周囲から投げられる言葉はどれもそれぞれの属性のためにあらかじめ用意された、優しく傷つかないうような言葉ばかりで、まどかのための言葉はどこにもない。傷つけないという優しいさや思いやかしこいという優しいさや多様性に応じることへの安心感が強く反映され

た、優しさを帯びたつもりの虚しい言葉の群れが、まどかを傷つけていく様子に、私の胸が鋭く痛んだ。

一方でまどかも、家族が病に伏せている友人に対して、ネットの中から世間にお墨付きをもらった優しい言葉を借りようとしていた。自分の思いを打ち明けなくせに、自分だけの言葉を贈ることを決り、ひたすら自分への言葉をくれる他人がほしいと嘆くまどかはひどく傲慢に見えた。

しかし、過去の自分を振り返ると私も傲慢だったのではないかと思う。

友人の悩みを聞いたとき、安易な言葉しか渡すことができないのに、自分がいざ悩みを言う立場になると理解してほしいと強く思ってしまった。それだけでは何も分かってもらえないし、相手のことも何も分からないのに。私もまどか同様、自分の言葉に責任を持つことの重みを知りながら、他人にはそれを求めてしまっていた。

また、普段何気ない会話を誰かとしているときも、決まりきった言葉や当たり障りのない言葉で最適解のような会話ばかりを選択していた。相手への気遣いや思いやりで精一杯になり、他者の口から発せられる言葉を心に留め置くことは少なかったように思う。例えば、「うつ病かもしれない」「ちょっとADHDっぽいんだよね」というような友人の言葉を隣で聞くと、きゅっとお腹を抓られたような違和感に襲われる。病気や障害の皮を被ってまで何者かになりたいのか。いつもそんな疑問が脳裏に浮かんできた。しかし、それは病気や障がい者の典型的なイメージが私の中でこびりついていて、ただで、友人を友人として見ていなかったようにも思う。それがささやかな共感を求めるだけの言葉だったとしても、友人がその思考に至るまでの経緯を私は何も知らないし、何を伝えたかったのか考えもしなかった。

まどかが自身をまどかとして見てほしいように、私も私として友人に理解してほしいと願うなら、「あなたはあなた」という姿勢を常に持って接しなければならなかったのではないか。まどかの胸の内に潜む強靱な思いが、物語を通して私にそう教えてくれたように感じる。自分の言葉で他人を個人として解釈してあげること。枠の中に放り込まないでその人自身と向き合い、その人のための言葉を紡ぐこと。それが本当の「優しさ」だと。

まどかのように敢えて言葉で自分を定義するのを必要としない人はいれば、言葉があった方が安心につながり、自分が何者か分かって勇気づけられる人もいる。しかし、どちらだとしても、個人は個人だ。ひとりひとりの人間は特定の属性では説明できなくて、マニュアル化された言葉で間に合うこともない。時に真っ直ぐ突き刺さる矢のような言葉で他人の内面に踏み込むからこそ、相手と向き合えることもあると思う。私たちは、属性があってもなくても個人と個人として話さなくてはならない。そして、個々が持っているはずの自身の言葉で寄り添うことが必要だ。

私たちは自らに張り付いた属性と共に生きなくてはならない。時にそれは自分を苦しめたり、軽蔑のまなざしを浴びる対象となったりするかもしれない。それでも、私はその枠の先で人々がわかり合えると信じていたい。今後、どんな人間関係においても相手のことを型にはめることなく、あなた個人として自分の中で懸命に編んだ言葉を贈っていきたいと思う。あなたのための、私だけの言葉で。



本間さんは、昨年も応募し県教育長賞・優秀賞を受賞しています。

この感想文を読んだみなさんにも、「優しさ」や、「人と向き合うこと」について考えるきっかけになればと思います。素晴らしい感想文をありがとうございます！

電子書籍で 広がる 読書の世界

現在の電子書籍市場規模と全国的な動向

日本国内の電子書籍市場は、ここ数年で急速に成長していて、2023年は、約5000億円規模となっています。特に漫画を中心としたコンテンツの需要増加や、スマートフォンやタブレットの普及、そしてコロナ禍によるデジタルコンテンツの需要拡大が市場の拡大を後押ししています。2024年の日本国内における電子書籍市場の規模について、現時点での正確な統計データはまだ公開されていませんが、2023年までの市場成長率や過去の傾向から推計すると、5000億円～5500億円程度になると見込まれます。

「電子書籍に関するアンケート」を実施

そこで、本校の生徒の利用状況はどうなっているのだろうと、全校生徒を対象にアンケートを実施しました。実施期間は1月8日から1月16日、全体で225名の生徒が回答してくれました。その結果をお知らせします。

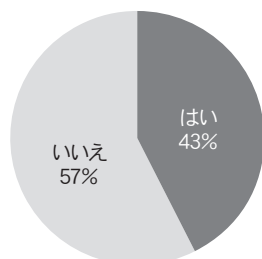
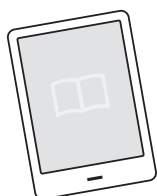
アンケート内容

- ① 電子書籍を利用したことがありますか
- ② (①が「はい」の場合) 利用頻度はどれくらいですか
- ③ (①が「はい」の場合) 利用する理由
- ④ (①が「はい」の場合) 利用する際のデジタル機器
- ⑤ (①が「いいえ」の場合) 利用しない理由
- ⑥ (①が「いいえ」の場合) 今後利用してみたいですか

① 電子書籍を利用したことがありますか

- はい：96人(43%)
- いいえ：129人(57%)

①電子書籍を利用したことがありますか



③ (①が「はい」の場合) 利用する理由

回答の多くが以下のような理由でした

- 漫画を読むため(例:「漫画を読みたいから」「漫画が読めるから」)
- 手軽さ(例:「書店に行かなくていい」「どこでも読める」「スマホで気軽に見られる」)
- 実用性(例:「本を置く場所がない」「紙より読みやすい」「無料作品が多い」)

漫画を読む目的が圧倒的に多く、電子書籍の主要な利用目的のようです。また、「どこでも読める」「紙の本と違ってかさばらない」といった電子書籍の利便性が大きな魅力となっていることがうかがえます。

⑤ (①が「いいえ」の場合) 利用しない理由

回答例:

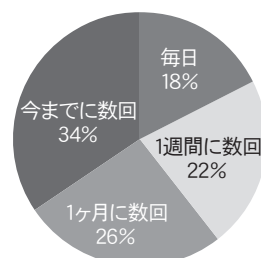
- 興味がない(例:「興味がないから」「本を読まないから」「読む気にならないから」)
- 紙の本の方が好き(例:「紙媒体のほうが好きだから」「本は手にとって読みたい」)
- わからない・めんどくさい(例:「使い方がわからない」「どのように利用するかわからない」「面倒くさそうだから」)
- 目が疲れる(例:「電子だと目が疲れる」「画面が小さい」)

電子書籍を利用しない理由は、そもそも「本自体に興味が無い」とこと、「紙の本へのこだわり」があるためのようです。また、電子書籍自体の利用方法がわからない、ハードルが高いと感じている人も一定数存在します。

② (①が「はい」の場合) 利用頻度はどれくらいですか

「1か月に数回」や「今までに数回」の利用者が全体の約60%を占めており、一度試したものの継続的な利用には至らなかった人が多いようです。「毎日」利用する人は少なく、電子書籍が「時々使う」ものである傾向が見られます。

②利用頻度



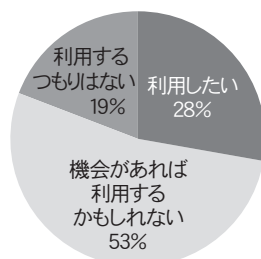
④ (①が「はい」の場合) 利用する際のデジタル機器

回答してくれたほぼ全員が携帯、スマホを利用しており、パソコンも利用している人が3名、タブレットも利用している人が5名いました。③の結果にある「手軽さ」を考えると、利用がスマホに集中するのは自然なことかもしれません。

⑥ (①が「いいえ」の場合) 今後利用してみたいですか

今後利用する可能性のある人が約8割います。今は興味が無かったり使い方が分からなかったりする人も、電子書籍が今後さらに身近なものになると、目にする機会が増えるかもしれませんね。

⑥今後利用してみたいですか



読書は必要不可欠な行為

読書は、知識や思考力、感受性を育てるだけでなく、人生を豊かにする手助けをしてくれます。現代のようにデジタル化が進む時代でも、自分のペースで読書を続けることが大切です。

そのような中、電子書籍は、高校生にとって手軽でコストパフォーマンスが高く、学びにも娯楽にも活用できる優れたツールです。まだ利用していない人は、ぜひ体験してみてください。新たな良さを発見できたり、逆に、紙の書籍の良さを再認識したりできるかもしれません。ただし、「デジタル疲れ」や「集中力低下」といった懸念点も指摘されていますので、正しい利用を心がけましょう。

令和六年度 図書委員会活動報告

移動図書館

横手城南高校では、校内の各フロアに図書を展示し、図書館に行かなくても本を借りることができ、学校司書の下村さんが選定し、その時々にあった本を並べてくれています。進路のための学習に役立つ人もいると思います。また、秋田県立図書館から借りた本も展示・貸出ししています。こちらは、3か月に一度新しい本に変わります。

今年は、テーマに沿った展示もしました。内容は、「食育」「SDGs」「スポーツ」等です。図書委員が考え、展示をした回もありました。みなさんの目が向くよう



な飾り付けになるよう、工夫しました。今後も、移動図書館を通して、たくさんの方々に図書をお届けしたいと思っています。

図書館便り

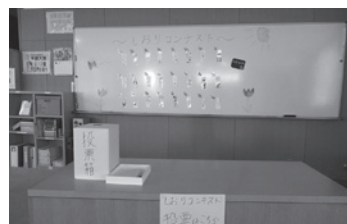
図書便りは、読書や本への興味・関心を高めてもらうことを目的として発行しています。名物コーナー「先生方へのインタビュー」では、先生方に読書にまつわるエピソードを聞いたり、おすすめの本を紹介してもらったりしています。さまざまな本が出てきて、お話を聞いているだけでもワクワクします。図書館や本にまつわる情報を、しっかりとみなさんに届けられるよう、今後も魅力的な記事作りを目指したいと思います。

城南祭

今年度の城南祭では、「しおりコンテスト」、「大型絵本の展示」「図書便り特別号の展示」などを行いました。

しおりコンテスト

来場された方すべてが投票権を持ち、たくさん投票をしてもらいました。さまざまな年齢



層の方が見てくださり、特に、他校生とかわれる方々がじっくり見ながら「かわいい」などと言ってくれていて、

とてもうれしく思いました。応募総数24点から最優秀賞に選ばれたのは、二年B組の高橋日菜さんの作品です。細かなところまで描かれていて、とても美しいしおりでした。みなさんの応募、そして投票、ありがとうございました。

大型絵本の展示では、なかなか見ることのできない大きな絵本に、びつくりした方も多いと思います。絵本だけでなく交通安全に関する本もありましたので、お母さんが小さな子どもに読んでいる姿が印象的でした。

POP交流

秋田県では、県内各校で作成した図書POP作品を交換・交流することで、読書活動の推進を図っています。本校も毎年参加をしていて、今年度は角館高校との交流となりました。興味が湧いたらぜひ手に取って、読んでみてください。そして来年度、POPを書いてみたいという人は、ぜひ図書委員に声をかけてください。

角館高校に送ったPOP

もうじきたべられるぼく

ぼくは、もうじきたべられるぼく。...

さんかく

さんかくは、さんかくの国。...

いらい、いらい、いらい

いらい、いらい、いらい。...

あの空に俺は飛ぶ

あの空に俺は飛ぶ。...

今夜、

今夜、世界からこの恋が消えても。...

僕の人生は

僕の人生は、無色透明だった。...

白ゆき姫殺人事件

白ゆき姫殺人事件。...

編集後記

今回は、電子書籍についてアンケート結果を特集しました。本校では平成26年度から、3〜4年おきに同様のアンケートを行っています。利用者の割合が最も多かったのは平成30年度で、71%でした。それ以降はだんだん減ってきていて、今回も前回より利用者の割合が減少しています。このような社会の流れと逆行する変化の原因は何なのかを探るような調査も今後

していけたらと思います。また、読書感想文について取り上げました。これをきっかけに、本を読んで終わりでなく、感じたことを表に出して残していくことができるのか。本を読むことで得られる喜びや学びは、紙の本でも電子書籍でも変わりません。ぜひ、自分に合った形で読書を楽しんでください。今後も、生徒の皆さんにとって興味深いテーマをお届けしたいと思います。ご意見があれば、ぜひ図書委員までお寄せください。